

「ジェンダー主流化」の取組の一環として、交通・観光分野でご活躍をされている方々から「顧客の満足度を高めるためのサービスや工夫」、「女性従業員の採用・幹部への登用を促進する取組」等の好事例を発信するとともに、施策への反映に繋げていくため、「ジェンダー主流化の取組に関する座談会」を開催。

日時：令和6年12月12日（木）15：30～17：00

会場：名古屋合同庁舎第1号館 11階 運輸大会議室

出席事業者：JR東海、静岡鉄道、西三交通（バス）、日本タクシー、桜運輸、由良機船、名鉄観光サービス、愛知県女性団体連盟



【基調講演】

テーマ：「JR東海の取組について」

講師：東海旅客鉄道（株）人事部 執行役員 武田 千佳 氏

- 女性職員の採用率25%、女性管理職員1.5倍、また、男性育休取得を100%を行動目標としており、着実に進めている。
- ジェンダー主流化により、女性社員だけでなく、男性社員にとっても働きやすい風土・職場になると考えている。
- 新幹線トイレを改善した経験から、女性社員を増やすことは女性の視点を取り入れることに繋がっており、経営的にも大事な点であると感じている。
- また、女性管理職の育成を進めることで、働き甲斐のある職場に繋がる。



【意見交換】

- 高速バスの乗客が、乗車中に、困りごと等を運行管理者にメールできるサービスを実施。メールを受信した運行管理者は、運転士に無線で改善指示を行う。
- 船内の女性専用設備の設置及び住環境の改善を行い、男性社員への理解促進に努めた。
- 産休から復帰する人が増えているが、これが奨励されることで、女性が長く働ける環境になっていく。
- 体調等についての面談を定期的に行うことで、女性社員の状況を把握することができた。
- 女性だけが職場を離れる弊害を軽減するため、男性育休の積極的取得が必要。

